

2-2分科会 Q&A

	質 疑	回 答
1	これまでの活動の中で、最も印象に残ったことは何ですか？	【ライブ回答】私は探検系で古い建物を子どもたちといっしょに見たときの感動などが印象に残っています。良い建物は長く残っていくとか、子どもたちが大人になった時で覚えていて欲しいな思っています。みんな新しい建物も好きだと思いますが、古い建物にも関心を持ってもらえているということがわかったことが、とても嬉しかったです。(佐藤)
2	子どもたちへの建築に関する教育を普及するアプローチ方法のアドバイスをお願いします。 海外では義務教育の中で建築やインテリアについて学ぶと聞いたことがあります。 また、広く学校にアプローチしたいと考えている方々がいると思います。 よろしくお願いします。	【ライブ回答】(画面共有のHPで)最近やった横浜市立藤が丘小学校のページを見て頂いています。古くは、自分の子どもの学校の先生等に直接活動についてご説明をし、授業を行って来ました。そのほか、HPからの依頼や、神奈川県造形教育を考える会に参加して、そこに参加している先生から依頼があったのが今画面共有している藤が丘小学校の事例です。また、高校生のキャリア教育については、神奈川県教育委員会で行っている県立高校生学習活動コンソーシアム協議会というところに建築士会として参加しており、そこでコロナ禍でインターンシップができなくなった高校から、キャリア教育の依頼がありました。私たちが長く活動している中で授業支援というのはとても大事な項目だと思っていますが、広くアテナを張ってネットワークを作っていくことの大事さと、発信活動を続けていくことの大切さもとても重要だと考えています。今ご覧頂いているようにHPで活動を報告したり、リアルタイムではFacebookを利用したり予定を発表したりしています。またこのあとお知らせしますが活動報告会も毎年開催しており、そこでは毎年製作している報告書で活動を発表しています。このようなことから、授業支援に繋がっているのではないかと考えています。(関口)
3	コロナ禍で体験型のワークショップ等を行うのが難しい中で実現されていますが、得られた経験から今後の活動に活かせることは何ですか？	【ライブ回答】まずバスタブリッジワークショップについてです。これはちょうどコロナ禍でとても不安で、何が出来るんだろうと考えていた時に、たまたま依頼がきました。新しく開発された大規模なマシンの中にある子育て支援スペースで行いましたが、主催者がcode for KOHOKUというITスキルを持った方々がプロボノで活動している団体だったので、私たちが不安で手探り状態ではありませんでしたが、少し安心して準備をすることができました。多元的に繋げてうまくいか、何がきちんと伝わるか、コロナ禍でいろいろ試す中で不安もあると思いますが、バスタブリッジのときのことをご紹介します。画面の写真の中にある大きなスクリーンにメインのパソコンが繋がっています。右側に見える小さなパソコンに先生が写っています。先生は大学にいらしてそこから中継しています。最後に講評して頂いた内容がとても好評だったので、その講評をして頂くために、タブレットとスマートフォンを持って、参加者のテーブルを回って先生に作業中の状況をお伝えしています。テーブルの上の緑色のカードにグループの番号が書いてあります。このような工夫により、それぞれのグループに対する講評をして頂くことが可能でした。このように複数のデバイスを使い切り替えていくのはなかなか難しいですが、このときは外部の方の力を借りることができたので、安心して行うことができました。オンラインを活用するにはその連携がとても大事ななということを、今回の全建女を通じて感じました。それからもうひとつの茅葺屋根見学ですが、これは逆に現場に行って生の声を聴くということが、コロナ禍においてもとても大事で、今後も変わらず大事にしていきたいと思った事例でした。いつもは見学だけでなく、ワークブックを作成したり、いろいろ試行する場面を作りますが、このときはとにかく滞在時間を短く、隣の人と密接しないようにということで、足場の上で外気に接していたので換気面では満足できていたと思いますが、短い時間の中でどれだけ中身の濃い内容にできるか、五感で感じるということを伝えられるかということが、変わらず大事なことだと思った事例でした。(氷室)
4	子供の募集方法などはどの様に行われていらっしゃるのでしょうか？	【ライブ回答】自主企画については主催の形態にもよりますが、たとえば行政の場合は広報に出るタイミングで原稿を回めなければいけないので、早めの計画が必要になりますが、市や県のお知らせや広報・ホームページに出してもらうのが主になります。昔は紙ベースでチラシを作りましたが、今はネットでチラシをHPやFacebookで広く告知をすることが多くなっています。(関口)
5	学校への出張講座の時など、交通費や日当などはどうしていますか？	【ライブ回答】日当などについてはそれぞれなので具体的に答えづらいのですが、依頼先が違うのでその都度都度相談してやっています。(稲村) 日当は基本、学校はありません。(氷室) 給食を頂いたりした事例はあります。(岩倉) 交通費も基本的でないことが多いのですが、その場合は建築士会で私たちが部会の活動予算がありますので、そこから出してきました。ただ神奈川県コンソーシアムサポートでは高校側でその分を予算化していることもありますので、そのあたりの事情は多少違う場合もあります。ただ基本的には学校の場合は日当などはありませんので、そのような場合は、神奈川県建築士会の本会でも社会貢献活動という位置づけで扱ってもらっています。(氷室)
6	神奈川県の皆様の活動に感激致しております	【ライブ回答】ありがとうございます。(岩倉)
7	興味深い発表をありがとうございます。コロナの流行をきっかけに適応障害になった児童などのお話もお聞きします。障害などのある子供たちについて、建築士ができる活動はあるでしょうか？生きにくさを抱えている子供たちについての活動などお考えでしたら教えてください。	【ライブ回答】これにつきましては、以前発達障害のある子たちのことを私たちが理解しないといけないということで、専門医の方に講師をして頂くことがあります。実際に障がいのある子たちを相手にしたワークショップなどはまだ実現できていませんが、今後何かの形でそういうことにも取り組めたらと考えています。(岩倉) 藤が丘小学校のときに、6年生全員に対して木を切ってペーパーを掛けて絵を描いて、最後にグループで積上げて高さを競うということをしたのですが、その時に先生から、障がいのあるクラスの子たちもみんな参加できるワークショップは初めてだったと喜ばれました。誰でもできるワークショップだとわかったのは、こちらとしても良かったと思います。(宇野)
8	私の支部でもキャリア教育でバスタブリッジをグループで作成し、そのバスタブリッジに重りを載せてチームごとどれぐらいの重りに耐えられるかをコンテストを行っています。作った後においしいいただくがありますが、作るのと食べるのと授業数はどれぐらい使っているのでしょうか？	【ライブ回答】(過去のバスタブリッジWS報告を画面共有して)このときのバスタブリッジWSは、買収同報告会の前の時間を利用して行いました。いちばんエネルギーを使うのはコンテストです。ひとりひとり作ったものをコンテストするので盛り上がりです。食べるのはさくっと終わった感じでした。(宇野) 時間的なことと作業というところ、子どもたちがやるのではなく調理をするスタッフは別にして、準備を並行して行っていますので、そのあたりが短い時間で食事まで可能だった要因かと思っています。(氷室) グループガンを使うと食べられなくなってしまうのですが、やはり食べ物材料に使うのであれば、食べ物を粗末には行けないと思うので、ゆでて最後に食べるという横井先生の発案はすごいなと思いました。(佐藤)
9	最後に食べられるのはとても素晴らしいと思いました。	【ライブ回答】ありがとうございます。(岩倉)
10	長く続けてきて、子供たちに何か変化をかんじたことはありますか？	【ライブ回答】H6からですから長くやっていますが、変わる変わらないという点でいうと、子どもたちの居場所も友達関係もどんどん変わってきているけれど、変わらない点もあって、友達と遊んでいるとか居心地のいい自分の居場所が欲しいということなど、価値観はどんどん変わってきている。私たちがそういうことを認めて見守り続けていくということが大事なのかなと思います。また、子どもたちが与えてもらったいい環境を享受するのはなく、自分たちで考えて自分たちで居心地のいい場所を作っていくということ、私たちがちょっと手助けしてあげられるようなことが大事なのかなと思っています。(佐藤)

11	継続している事業内容で特に人気のあるもの、取り組みやすく、おススメの内容のものがありますか。	【ライブ回答】現在継続しているものは特にはないのですが、10年間小学校の学童で夏休みWSを続けたことがあり、その中で特にこれが人気だったというものはないけれど、その時々で相応しいもの、例えば学校の隣の講演で長屋門の移築復原工事をしていたときは、その職人さんや大学の先生と連携して土壁体験をしたり、県産材のことを学ぶということで県産端材をつかった作業をしたり、環境問題が話題になったときはスチレントレイを有効利用した内容にしたり、震災の時は自分の体をブロック塀に見立てて、倒れないようにするにはどうしたらよいか等、その時代時代にあった内容を扱うようにしてきました。(岩倉) どのワークショップも導入をしています。(宇野) 導入はいつも人気で楽しんでもらう秘訣として、私たちが必ず意識してきていることです。(岩倉)
12	コロナはまだまだ収束しそうにないですが、今後の活動について、どのように続けていこうと考えていますか。	【ライブ回答】コロナ禍になって最初にやったのがアンケートでしたが、パスタブリッジがやはりいい経験だったと思います。このような活動の中でオンラインを利用したり、最近ではアプリにも注目していて、デジタル化している今の子どもたちの興味の中に私たちも入って行って、地図アプリや建物アプリを作ったり、茅葺屋根見学の時もマイクラで茅葺屋根を作れないかという話が出たりもしていて、そういう子どもたちの興味にも寄り添っていきたいと考えています。 あとは変わらず実体験として、見る・触るといことも続けて行けたらと思っています。(宇野)
13	参加者が消費者になったり、設計や建築の仕事につくなど、つながっていくと良いですね。	私たちの活動は、ときどき「未来の建築士を増やそうとするのか」と誤解を受けることがあります。もちろん、仕事として建築関係に興味をもってもらえるのが嬉しいですが、それ以前に、いえやまちやたてもものについて、受け身でなく、自分たちで考えることのできる大人になってほしいという思いがあります。経験したことが、記憶のどこかに残ってくればと願っています。
14	ブロック！！うまい！！導入がある、、、ありがとうございます。参考になりました！ありがとうございます。	ありがとうございます。
15	最後の宇野さんのコメント。共感しました。すばらしい。ありがとうございます。	ありがとうございます。
16	長年にわたる活発な活動について興味深く拝聴させていただきました。日々の業務や家庭生活と、活動の両立はどのようにされていますか。	私たちの合言葉は「できる人ができるときに」です。お互いが過度な負担を感じることなく、自身の意思で楽しく活動ができるように心がけています。年齢や活動期間に関係なく、言いたいことが言い合えるフラットな関係なので、各々が仕事や家庭とのバランスを取りながら活動を続けることができています。